

2014年度 第3四半期決算説明会 主な質疑応答

- Q1: イメージングソリューションが好調だが、来年度以降の動向をどう見ているか？
- A1: フォトイメージングではインスタントカメラが好調だが、この状況は一過性ではなく継続すると見ている。世界においては欧米などの先進国でも人気に火がついた所である。カラーペーパーについてもフォトブックなどの新しい需要が今後も伸びていくと思われる。デジタルカメラではミラーレスカメラなどハイエンドモデルにシフトしており、利益が出せる状況になっているが、ミラーレスカメラの市場自体も今後も伸びていくと見ており、この状況はしばらく継続できると考えている。
- Q2: エボラ出血熱への効果が期待されているアビガン錠の現在の治験の状況は？
- A2: フランス政府とギニア政府によるギニアでの治験が現在進められている。治験の詳細な状況についてはお答えできる立場ではないが3月頃まで続くと発表されている。
- Q3: 今期のチェキ及びデジタルカメラの販売台数目標は？
- A3: チェキは9ヶ月累計で販売台数290万台まで来ており、年度目標の350万台は十分達成でき、上振れも期待できる。デジタルカメラにおいては利益優先で台数は追っていないが、9ヶ月累計で184万台に達しており、200万台程度の見込みに対して1割程度上振れで動いている。
- Q4: インフォメーションソリューションの中で記録メディアと電子材料が2割程度の増収と特に好調だが、その理由は？
- A4: 記録メディアについては、より大容量の記録媒体が求められてきており、当社製品に対する期待度は高い。様々な企業で当社の磁気テープのデータ保管における低コスト性が認知されてきており、今後も伸びていくと見ている。電子材料では、世界的に半導体が不足しており、増産がかかっている。フォトレジストだけでなくCMPスラリーなど周辺部材の需要が増えており、非常に高い品質のものが求められつつある。当社製品の品質は周辺部材も含めて顧客企業から認められており、かなり大きく伸びている。このトレンドは今後も続くだろう。
- Q5: 医薬品への研究開発費を積極的に投入しているとのことだが、研究開発費の年度計画を変える予定なのか？
- A5: 全体で研究開発費の効率化を進めており、売上高比率は若干減少させている。その中で将来伸びていくヘルスケアの分野に特化するなど、集中と選択を行っていく。

以上